

資 料

第1節 自然条件

1 地 形

当地域は、京都府南部のほぼ中央にあつて、東は滋賀県大津市等、西は亀岡市、南は宇治田原町、城陽市、京田辺市、北は南丹市等と接しており、面積は、966.5 k m²（府全体の21.0%。平成17年4月1日に旧京北町が京都市と合併し、面積が217.7 k m²増加した。）である。また、三方を東山、北山及び西山連峰をはじめとする山地に囲まれた形で南に開けた京都盆地を形成している。この地域の地質は、平地部の大部分の地域において沖積層が洪積層を覆っており、周辺の山麓では古生層を基盤とする大阪層群（下部洪積層）の堆積がみられる。

2 気 象

当地域の気候は内陸的な気候であり、冬季と夏季における寒暖の差が大きく、京都気象台の平成18年観測結果によると年平均気温は15.9℃である。年降水量は1,582.5mmであり、季節的にみると、7月をピークに5～7月に比較的降水量が多い反面、冬季は降水量が少なく、河川水量の低下をもたらしている。

また、当地域は、三方を山に囲まれているという独特の地形にあるところから、風向は、ほとんど一定していないほか、逆転層が生じやすく、大気環境に影響が現れやすい。

3 水 象

当地域の主要河川は、淀川水系の桂川、宇治川及び木津川であり、この三川は、大阪府境で合流して淀川となり、大阪湾に注いでいる。

桂川は、京都府中部の山岳地帯を源とし、京都市の市街地を縦断する鴨川をはじめ、清滝川、小畑川等大小の支川を合わせて南下しており、上水道用水、農業用水等として利用されている。

宇治川は、滋賀県の琵琶湖から流下しており、水量が豊富で、上水道用水、農業用水、発電用水等として利用されている。

木津川は、奈良県宇陀及び三重県伊賀の両山地から笠置の峡谷を経て流下しており、上水道用水、農業用水等として広く利用されている。

4 動植物等

(1) 植物相

当地域の植物相は、生態学的には大部分が常緑広葉樹林帯（照葉樹林帯）に属しており、京都市左京区や北区などの一部に落葉広葉樹林帯（夏緑樹林帯）がみられる。

原植生としては、暖温帯林ではシイ・カシ類、冷温帯ではブナ類であるが、このよ

うな原始的な自然の様相を残している森林は、河川の源流域や山稜部、あるいは社寺林として局地的に残存しているに過ぎず、全体としては少なくなっている。近年、当地域を中心とする府南部では、竹林の拡大による天然林の後退がみられる。

府内の植生を区分別に見ると、ヤブツバキクラス域代償植生（コナラ林、アカマツ林等）が最も多く、植林地・耕作地、ブナクラス域代償植生（ミズナラ林、シデ林等）と続いている。自然植生は少なく、ブナクラス域自然植生（ブナ林等）と、ヤブツバキクラス域自然植生（シイ林、カシ林等）がわずかに残るのみである。この傾向は当地域のある府南部で顕著であり、大部分がヤブツバキクラス域代償植生になっている。

また、分布や構造等が典型的な植物群落や脆弱な植物群落については、環境省の特定植物群落調査が行われており、府域83カ所のうち、当地域では35カ所が対象となっている。

(2) 動物相

(哺乳類)

府内では外来種を含め48種（うち外来種は12種）のほ乳類の生息が確認されている。

府の代表的な大型哺乳類としては、ツキノワグマ、カモシカ、ニホンジカ、ニホンイノシシ、ホンドタヌキ、ホンドキツネ等がよく知られている。

当地域では、ウサギやイタチがみられるほか、テン、アナグマの分布が点在している。個体数は少ないがホンドキツネ、ホンドタヌキも分布している。

また、近年、アライグマ等の外来種が都市近郊を中心に急速に増えるなど、ペットの放逐等による野生化の報告例が目立っている。これら、国外、地域外からの外来種、移入種については、在来の近縁種との交雑、捕食や生息地の競合による在来種への圧迫等により自然生態系をかく乱するおそれがあるとして問題となっている。

(鳥 類)

府内では、これまでに336種の鳥類が確認されている。

本府は夏鳥の繁殖地としてよりも、ガンカモ科、ホオジロ科、アトリ科の鳥類によって代表される冬鳥の越冬地として、更に、シギ科、ウグイス亜科、ヒタキ亜科の鳥に代表される旅鳥が渡りの途中に立ち寄る地域として重要であるという特徴がある。

(両生・は虫類)

府内では、これまでに両生類22種、は虫類16種の分布が記録されている。

両生・は虫類は、概して人間生活との関係の薄いものが多いことから、無意識的に生息地が破壊されることも多く、急激な減少や地域的な絶滅の危険性がある種も少なくない。

(淡水魚類)

府内の淡水魚は、外来魚も含め114種（うち外来種12種）が記録されている。

琵琶湖淀川水系が貫流していることもあって、全国的にも特殊な位置を占めている。魚相は極めて豊富で、府内やその近辺のみに限られる種や府内が東限または西限となっている種も数多くみられる。

(昆虫類)

地球上に150万種も生息しているといわれる昆虫類は、その生活様式においても多様性に富み、それぞれの種の行動や習性・生活史などは極めて複雑である。

府内では約6,400種が確認されており、そのうち半数以上の約3,500種が鞘翅目（コウチュウ目）となっている。

第2節 人口

当地域の人口は、平成17年10月1日現在、1,904千人であり、府人口2,648千人のうち71.9%を占めている（平成17年10月1日現在）。平成12年と比較すると、向日市で1.6千人（3.0%）の増加、全体でみると9.0千人（0.5%）の増加となっている。市町別にみると、京都市が1,475千人（地域全体の77.5%）で最も多い。

当地域の人口密度は、1,970人／ k m^2 である。また、DID面積は190.5 k m^2 、DID人口は1,798千人であり、その人口密度は9,434人／ k m^2 であり（平成17年10月1日現在）、平成12年と比較すると26人／ k m^2 （0.3%）の微増であった。

第3節 産業

1 概要

当地域の就業人口は、平成17年10月1日現在、888千人であり、産業別では第1次産業が9千人（1.0%）、第2次産業が210千人（23.7%）、第3次産業が669千人（75.4%）となっており、第3次産業の比率が増加する傾向にある。

総生産は、平成16年度において、7兆5,263億円となっており、府内総生産額9兆8,310億円の76.6%を占めている。

総生産からみた産業構造は、第1次産業が0.2%、第2次産業が24.5%、第3次産業が75.3%となっている。

また、土地生産性の指標である1 k m^2 当たりの総生産は78億円（府平均は20億円）である。

2 工業

当地域の工業は、電気及び輸送用機械器具製造業を中心に、出版・印刷・同関連産業、その他の製造業（娯楽用具・がん具製造業）等を主要業種として展開している。

当地域の平成17年の製造品出荷額等は3兆6,651億円であり、府全体に占める割合は74.3%となっている。

また、市町別の製造品出荷額等では、京都市が2兆2,705億円（地域全体の61.9%）、次いで宇治市が4,730億円（同12.9%）、長岡京市が3,406億円（同9.3%）等となっている。

事業所数では、府域全体の60.3%を占める8,472事業所が集中し、内訳は繊維工業が2,448事業所（地域全体の28.9%）、一般機械器具製造業804事業所（同9.5%）出版・印刷・同関連産業688事業所（同8.1%）等となっている。

3 農林水産業

(1) 農業

当地域の農業は、都市近郊地域での野菜栽培を中心に、稲作、畜産、花き栽培等を行っている。

当地域における平成17年の農家数は、総農家数で6,854戸、販売農家数で4,295戸、農家人口（総農家）は19千人、耕地面積は4,675haである。平成12年と比較（旧京北町域を含める）すると、総農家数で8.7%、耕地面積で4.9%減少している。農家数を経営形態別で見ると専業農家率は25.6%であるが、京野菜などを中心とする園芸作物生産が盛んである。

平成17年の農業粗生産額は217億6,000万円で、野菜が154億1,000万円、米が26億8,000万円、畜産が6億2,000万円等となっている。

なお、平成18年の家畜飼養頭羽数は、乳用牛が269頭、肉用牛が60頭、豚が137頭、採卵鶏が66千羽、ブロイラーが2千羽である。

(2) 林業

当地域の平成18年度末現在の森林面積は65,763ha（府全体の19.1%）で、地域面積の68.1%を占めており、都市近郊林としての公益的機能も果たしている。

特に、京都市京北地域は古くからの林業地であり、林業が基幹産業となっており、府内でも屈指のスギ、ヒノキの良質材を産出している。

(3) 水産業

当地域は内陸部に位置するため、水産業は内水面漁業のみとなる。

府域における平成17年の内水面漁獲量は248 t となっている。

4 商業

当地域の卸・小売業は、平成16年では商店数28,101店、従業者数201千人、年間商品販売額6兆3,483億円であり、各々府全体の75.2%、78.8%、85.2%を占めている。

5 サービス・観光業

当地域は、かつて平安京や長岡京が置かれた地域を含み、文化的、学術的に貴重な文化財も多く、毎年、国の内外から数多くの観光客が訪れるほか、国際的な会議も多く開催されている。

当地域における平成18年の観光入込客数は、56,763千人で、このうち京都市が85.3%を占め、また、当地域における宿泊客の比率は22.6%となっている。

第4節 都市環境

1 土地利用

当地域の面積は966.5k㎡の土地利用の状況は、森林が657.6k㎡（68.0%）で最も多く、宅地が107.7k㎡（11.1%）、農用地が46.8k㎡（4.8%）、その他が154.4k㎡（16.0%）となっている。

2 都市計画

当地域の都市計画区域図は図6-4-1のとおりである。

当地域の都市計画区域は、全市町について、それぞれの全部又は一部が指定されており、平成19年3月現在、行政区域面積96,650haのうち59,810haが都市計画区域となっている。

この都市計画区域のうち、市街化区域は20,452ha（地域全体の21.2%）、市街化調整区域は39,358ha（同40.7%）を占めている。

また、市街化区域の用途地域別面積は、住居系地域が13,774ha（同14.3%）、工業系地域が4,624ha（同4.8%）、商業系地域が2,053ha（同2.1%）となっている。

3 都市施設等

(1) 上水道

当地域の水道の普及率は、平成18年3月末現在、99.8%（府全体では99.4%）であり、これを市町別で見ると、向日市、長岡京市及び大山崎町が100%、そのほかの市町も99%以上となっている。

(2) 下水道

当地域においては、桂川右岸流域下水道、木津川流域下水道と京都市、宇治市及び八幡市、久御山町（処理は京都市等に委託）の公共下水道が整備されている。桂川右岸流域下水道の関係市町は、京都市、向日市、長岡京市及び大山崎町で、木津川流域下水道の関係市町は、京都市、宇治市、八幡市及び久御山町である。

当地域の下水道整備状況は、平成18年度末現在、処理人口が1,735千人で、行政人口に対する普及率は95.4%となっている。

(3) 一般廃棄物処理施設

ア し尿処理施設等

当地域のし尿処理施設は、平成19年4月現在、1施設で115k1/日の処理能力を有している。

他にコミュニティ・プラントが1施設あり、302.7m³の処理能力がある。

イ ごみ処理施設

当地域のごみ処理施設は、平成18年度末現在、ごみ焼却施設が8施設で2,995t/日の処理能力を有し、粗大ごみ処理施設が4施設で560t/日の処理能力を有している。

ウ 最終処分場

当地域の最終処分場は、平成18年度末現在で3施設が稼働中で、平成19年3月末の残余量は4,101千m³となっている。

(4) 産業廃棄物処理施設

当地域には、平成18年3月末現在、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく産業廃棄物処理施設は82施設あり、その内訳は中間処理施設が78施設、最終処分場が4施設となっている。

中間処理施設のうち、最も多いのは木くず又はがれき類の破碎施設で45施設となっている。最終処分場のうち、安定型は1施設、管理型は3施設となっている。

(5) 公園緑地

当地域の都市公園は、平成18年度末現在1,359か所（府全体2,069か所）で、その面積は845ha（府全体1,714ha）となっており、人口1人当たりの都市公園面積は4.46m²（府全体6.81m²）となっている。

(6) 文教施設

当地域の文教施設は、平成19年5月1日現在、幼稚園が158園、小学校が249校、中学校が125校、高等学校が67校、特別支援学校が12校設置されている。

(7) 社会福祉施設

当地域の社会福祉施設は、平成18年10月1日現在、児童福祉施設が114施設、老人福祉施設が515施設、身体障害者更生援護施設が47施設、知的障害者援護施設が51施設、精神障害者社会復帰施設が22施設設置されている。

4 交通運輸

(1) 道路

当地域の道路網は、高速自動車国道として中央自動車道西宮線、一般国道として一般国道1号、9号、24号ほか4路線があり、これらを補完する府道・地方道等により形成されている。

(2) 空港

当地域には、空港はない。

(3) 鉄道

当地域には、地域のほぼ中央を横断している東海旅客鉄道（株）の東海道新幹線をはじめとして、西日本旅客鉄道（株）の東海道本線、山陰本線及び奈良線、京都市高速鉄道（京都市営地下鉄）烏丸線・東西線、京阪電気鉄道（株）京阪本線、阪急電鉄（株）京都線及び近畿日本鉄道（株）京都線等があり、京都府の南・北部地域や周辺府県を経て全国各地と当地域を結んでいる。

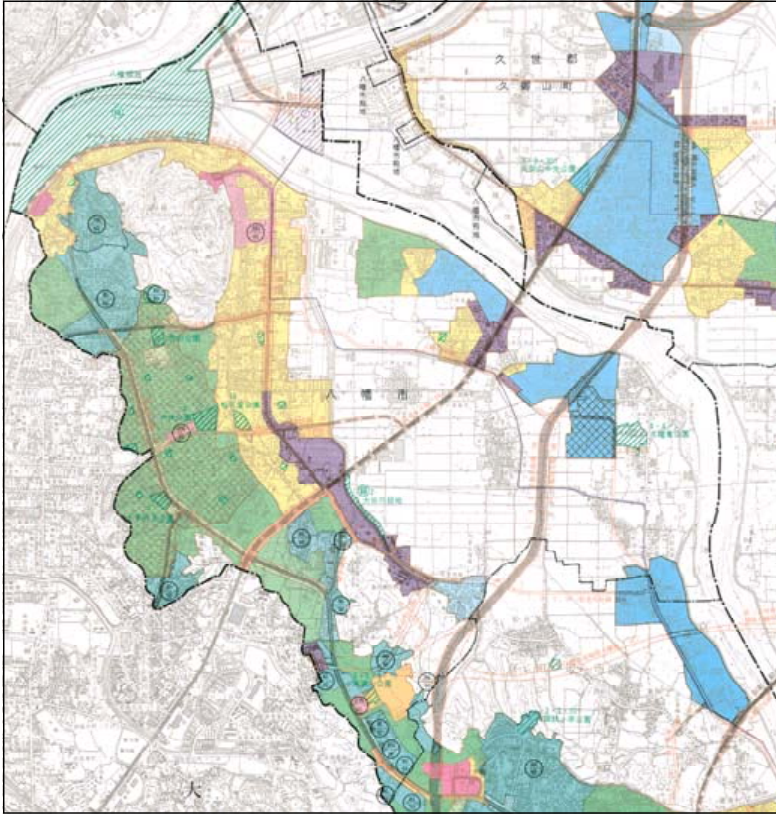


図6-4-1(2) 都市計画区域図 (八幡市)

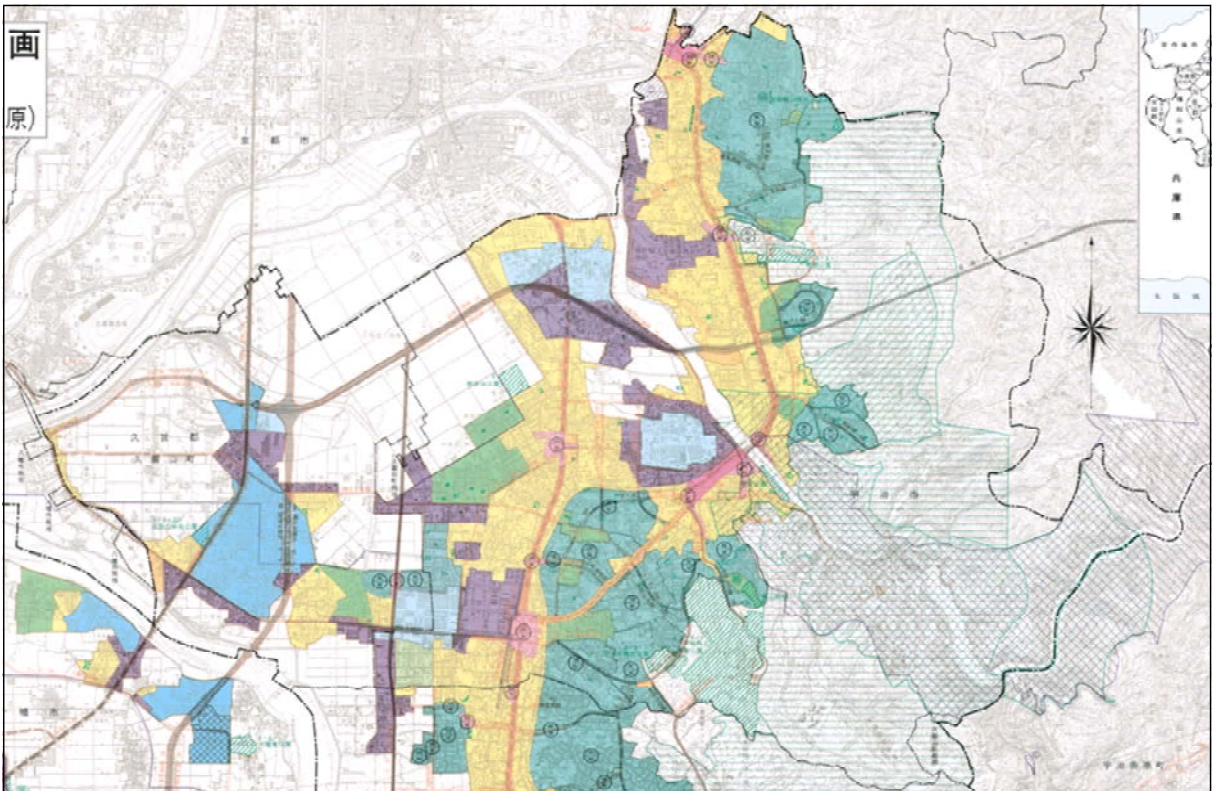


図6-4-1(3) 都市計画区域図 (宇治市、久御山町)